

資料

群馬県みなかみ町におけるコホオアカ *Emberiza pusilla* の観察記録

嶋崎太郎

嶋崎動物調査研究所 : 〒067-0072 北海道江別市一番町16-35-201
(tarobe131@gmail.com)

要旨 : 2018年10月, みなかみ町の武尊田代湿原においてコホオアカ *Emberiza pusilla* を観察撮影した。これは群馬県における3例目の記録となる。

キーワード : コホオアカ, *Emberiza pusilla*, 武尊田代湿原, みなかみ町

Observation records of Little Bunting in Minakami Town,
Northern Gunma Prefecture.

SHIMAZAKI Taro

Shimazaki Animal and Plant Research Institute, 16-35-201, Ichibancho, Ebetsu, Hokkaido 067-0072, Japan
(tarobe131@gmail.com)

Key Words : Little Bunting, *Emberiza pusilla*, Hotakatashiro Marsh, Minakami Town

はじめに

コホオアカ *Emberiza pusilla* Pallas, 1766はスズメ目ホオジロ科ホオジロ属の鳥類で, 日本では旅鳥または数少ない冬鳥として主に日本海側の島嶼や南西諸島に渡来するが, 本州でも毎年通過する地域があるとされる(真木ほか, 2014)。群馬県においては迷鳥とされ, 2002年に伊勢崎市, 2009年に館林市において記録されている(日本野鳥の会群馬, 2020)。筆者は2018年10月にみなかみ町において本種1個体を観察撮影した。これは本県における3例目の観察事例であり, 貴重な記録であると思われるため, 報告する。

確認状況

観察地はみなかみ町藤原の武尊田代湿原である。筆者は2018年10月4日, 植物調査のために当地を訪れたが, 湿原内に入ったところ見慣れない小型のホオジロ属が地上で採餌している姿が目に入った。今回報告する個体はヌマガヤ *Moliniopsis japonica* 等のイネ科草本の種子を食べて

いたが, 筆者に気づくと飛び立って湿原周縁部の灌木に止まった(図1)。その後, 灌木下の草地で採餌していたが, 約5分後にチシマザサ *Sasa kurilensis* の茂みに入って見えなくなった。

コホオアカの観察時, 周辺では同じホオジロ属のアオジ *E. spodocephala*, クロジ *E. variabilis*, カシラダカ *E. rustica* 等がそれぞれ群れを形成していたが, コホオアカはこれらの群れに入らず単独で行動していた。

なお, ホオジロ属は外見が似ている種が多く, コホオアカもホオアカ *E. fucata* やカシラダカ等と類似している。筆者が観察したホオジロ属の個体は, 写真図鑑(真木ほか, 2014。叶内ほか, 2014。河井ほか, 2013など)に掲載されている個体よりも赤みが少なく見えたが, アオジやカシラダカより明らかに小さかったこと, 頭側線や頬を囲む線, 顎線が黒いこと, 腹は白く胸や脇に黒斑があること等の特徴からコホオアカであると判断した。なお, 先崎啓究氏(道央鳥類調査グループ)に撮影画像を送って確認を依頼したところ, コホオアカで問題無いとの回答が得られた。



図1. 武尊田代湿原で観察されたコホオアカ
Fig.1 Little Bunting observed in Hotakatashiro Marsh.

謝辞

国立環境研究所の小出大研究員には当観察記録の発表の許可を頂いた。道央鳥類調査グループの先崎啓究氏には撮影した画像を確認して頂いた。日本野鳥の会オホーツク支部の川崎康弘氏には原稿のチェックをして頂いた。ここに厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄(2014): 山溪ハンディ図鑑7 新版日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京, 672pp.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳(2013): 新訂北海道野鳥図鑑. 亜瑠西社, 札幌, 399pp.
- 真木宏造・大西敏一・五百澤日丸(2014): 決定版日本の野鳥650. 平凡社, 東京, 790pp.
- 日本野鳥の会群馬(2020): 群馬県鳥類目録改訂版. 日本野鳥の会群馬, 高崎, 94pp.